リ、石膏模型ヲ作ル。コノ模型ニ最適ノ「トレ」ヲ選擇シ、或ハ作り、夫ニコノ Wachs ヲ盛り、 50° — 51° Cノ湯ニ3分間入レ、加温シテカラ、前ノ模型ノ印象ヲ採ル。次ニ之ニテ口腔内ノ印象ヲ採ルノデアアルガ、ソノ前ニ 50° — 55° Cノ湯ニ1分間入レテ加温ス。機能印象ハ閉口状態ニテ行ハネバナラヌカラ、「トレ」ニ Bisswall ヲ作ラネバナラス。(中村 靖)

矯 正 科

○網目圖法ニ依ル診斷法

The Network Method of Orthodontic Diagnosis.

von Dr. Lucien de Coster, Brussels

(The Angle Orthodontist. Janu. 1939, p. 3.)

Van Loon ニ依リ、矯正診斷學ニ、齒牙ト頭蓋及顔面トノ關係ガ取入レラレテ以來、20年後ノ今日ニ致ルモ、未ダ診斷學ハ完全ノ域ニ達シテ居ナイ。

著者ハ、不正咬合ノ診斷法トシテ、顔面ノ遠隔「レントゲン」寫眞上ニ規定ノ網目ヲ畫キ、豫メ定メタル諸基點ヲ以テ、概當セル年齢ノ正常ナル場合ノモノト比較シ、不正状態ノ發見更ニ容易ナラシメント試ミタ。

先第1ニ必要ナルハ、各年齢群ニ於ル、正常ナル顔面ノ模型圖デアル。著者ハ各年齢ノ兒童ノ正常ト思ハレルモノ400人ヲ、發育階程ニ依リ次ノ6群ニ分ケタ。a) 4歳—6歳、b) 6歳—8歳、c) 8歳—12

第 1 圖

遠隔「レ」線寫眞上ノ解剖的諸基點ノ示ス。

歳、d) 12歳—15歳、e) 15歳—20歳、f) 20歳以上。是等ノ遠隔「レントゲン」寫眞ヨリ、各年齢群ノ正常ナル模型圖ヲ作製シタ。

解剖學上ノ諸基點トシテハ、①鼻根點(骨點、皮膚點)、②眼窩下點(骨點、皮膚點)、③迎珠、④「トルコ」鞍、⑤外眼窩突起ノ後壁、⑥翼狀突起ノ最下點、⑦鼻棘點、⑧上顎第1大白齒齒根端間中央、⑨上顎第1大白齒咬合面中央、⑩顴骨突起最下點、⑪完全ニ萌出セル最後方白齒ノ咬合面中央、⑫完全ニ萌出セル犬齒尖端、⑬上顎中切齒切端、⑭上顎中切齒齒根端、⑮Gonion、⑯下顎中切齒切端、⑰下顎中切齒齒根端、

第 2 圖

a 6—8歳ノ標準模型圖

b 網目圖法ニヨル不正咬合ノ診斷ノ1例

⑮下顎第1大臼齒咬合面中央, ⑯下顎骨體下縁ノ第1大臼齒長軸ニ沿フ點, ⑰頤點(骨點, 皮膚炎), ⑱Prosthion, ⑳Infra dentale。

「レントゲン」寫眞上テ是等ノ諸點ハ容易ニ發見シ得ル(第1圖)。網目ハ直接「フィルム」ノ上ニ畫クカ又ハ上ノ諸點ダケ簡單ニ、ヒキ寫シテオイテモヨイ。圖法ハ先ヅ迎珠ト眼窩下點ヲ結ブ、フランクフルトノ水平面ヲ畫ク。次ニ迎珠ヲ通りコノ水平面ニ垂直ナル線ヲ畫ク。次ニ鼻根點ヲ通りフランクフルトノ水平面ニ平行ナル線ヲ畫ク。之ヲ Krogman plane ト云フ。コノ2線ハ顔面ノ可變域(deformable area)ノ上界及後界ヲナスモノデアル。次ニ頤點ヲ通り Krogman plane ニ平行ニ最下線ヲ引キ Krogman plane トノ間ヲ9等分スル。垂直方向ニ於テハ眼窩下點ヲ通りフランクフルトノ水平面ニ垂直ナル線ヲ引キ、迎珠ヲ通ル垂

直線トノ間ヲ4等分ス。尙同距離ヲ以テ眼窩下點ヲ通ル垂直線ノ前方ニ一ツノ線ヲ畫ク。カクテ或發育期ニオケル典型的ナ模型圖ガ畫キ得タ(第2圖)。

之ヲ不正狀態ノモノニ比較スルニ偏尖シテ居ル各基點ガ、對照トナル正常ナルモノ、ソノ點ト同一ナル網目ニ位置スル様ニ隣ノ線ヲ變形シテユク。若シソノ點ガ線上ニアルナラバ同一線上ニ位置スル様、線ヲ變形シ、網目ノ中ニアレバ同一ナル網目ノ中ニ來ル様ニ線ヲ變形シ、カクテ一ツツ、線ヲ移動シテユク。カクテ變形シタ網目ノ形ニ依リ、不正關係ヲ明瞭ニ認識シ得ルワケデアル。

此方法ハ顔面ノ發育、變形等ニモヨイ idea ヲ與ヘルコトガ出來、又齒牙ト頭蓋及顔面トノ相關關係ヲモ容易ニ知ル事ガ出來ル。(高橋晃次郎)